

国際武道大学

まつい かんた ろう
松井 完太郎

国際武道大学 学長



高見令英前学長の任期満了に伴い、2022年4月1日付で松井完太郎教授が学長に就任した。

松井新学長は1963年東京都生まれ。早稲田大学政治経済学部卒業後、東海大学大学院政治学研究所修士課程修了。1996年に本学体育学部専任講師に就任、助教授を経て、2007年に教授となり現在に至る。この間、入試・広報センター長、図書館長、体育学部長、副学長を務めた。専門は障害者武道論。著書には『Budo Perspectives』（共著）等があり、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に

向けたスポーツ国際貢献事業である「SPORT FOR TOMORROW」では、欧州諸国で障害者武道講習会を開催し、各国で多くの裨益者^{ひえきしや}を得た。現在、（公財）日本武道館理事、日本武道学会理事、（一社）障害者武道協会代表理事を務める。

国際武道大学は、「知識と技能を体得した世界で活躍できる武道・スポーツの指導者」の育成を目的としている。すなわち学生には、実践の中で知識を生きた知恵として発揮することを求めている。教育・研究・社会貢献等を通じ、武道・スポーツで社会を豊かにしたいと抱負を語っている。

西武文理大学

やまき かずひこ
八巻 和彦

西武文理大学 学長



小尾敏夫前学長の退任に伴い、4月1日付けで学長に就任した。任期は2年間。1947年山梨県生まれ。早稲田大学第一文学部、東京教育大学大学院修士課程を終えた後、博士課程を中退して、1976年に和歌山大学教育学部に就職。1990年に早稲田大学商学部に転じた。2018年3月に定年退職して早稲田大学名誉教授となる。この間、早稲田大学学生部副部長、同広報室長、早稲田大学系属早稲田中学校・高等学校長などを歴任。

専門は西洋哲学。中世末期のニコラウス・クザヌスの

研究では国際的に活動している。2001年1月に京都大学より博士（文学）を授与された。主な著書は『クザヌスの思索のプリズム』（知泉書館、2019年）“Anregung und Uebung — Zur Laienphilosophie des Nikolaus von Kues” (Aschendorff Verlag, 2017)。

AI万能感がはびこる今今であるからこそ、開学以来、ホスピタリティ教育を根幹としてきた本学の特色を全学生にしっかりと体感させたい、その為のいろいろな仕掛けを設けたい、と抱負を語る。

東京歯科大学

いちのへ たつや
一戸 達也

東京歯科大学 学長



井出吉信前学長の後任として、2022年6月1日付で一戸達也教授が学長に就任した。

一戸新学長は1981年東京歯科大学卒業、1985年東京歯科大学大学院（歯科麻酔学専攻）修了後、東京大学医学部附属病院での医科麻酔科研修とUCLAへの留学を経て、2002年に東京歯科大学の教授就任。2013年から副学長、2017年から法人常務理事。『歯科麻酔学』（医歯薬出版）など、編著書多数。日本歯科麻酔学会元理事長で国際歯科麻酔学会連合会長。医道審議会歯科医師臨床研修部会長や歯科医師

臨床研修制度改正に関するWG座長、歯科医師国家試験出題基準改定の幹事委員、大学基準協会歯学教育評価委員などを務めている。

「歯科医師たる前に人間たれ」という建学の精神に基づき、「歯学に関する専門の学術を教授研究すると共に、豊かな教養と高い人格を備えた人材を養成し、もつて人類の福祉に貢献することを目的とする」という大学の目的を実現すべく、歯科界のリーダーとして国民のために貢献する歯科医師育成、研究成果発信と知的財産の創出に向けて努力する決意である。

跡見学園女子大学

こなかのぶたか
小仲 信孝

跡見学園女子大学 学長



笠原清志前学長の任期満了に伴い、4月1日付で小仲信孝氏が新学長に就任した。任期は4年。小仲学長は1952年東京都生まれ。早稲田大学大学院文学研究科博士課程後期課程単位取得満期退学。麻布中学校・麻布高等学校に勤務後、1990年跡見学園短期大学専任講師に就任、助教授を経て1998年から短期大学部（名称変更）教授。2007年より跡見学園女子大学文学部教授に就任し現在に至る。

入試・広報部長、学生部長、文学部長を歴任。学園

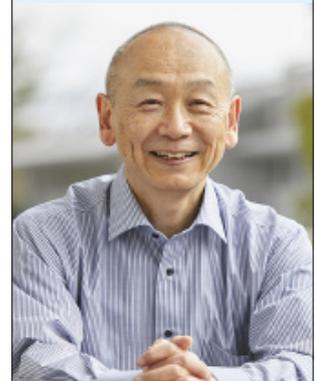
評議員・理事としても複数期在任している。また日本近代文学会評議員、大学入試センター問題作成委員（国語部会長）を務めた。専門は日本近代文学。

（家）（家族）（身体）の視点から島崎藤村、樋口一葉、森鷗外、夏目漱石などのテクスト分析を行っている。主な編著書として『雑誌「趣味」の研究』がある。「どうしたら学生の満足度を高めることができるか、4年間女性のための大学づくりを目標に旗を振り続ける」と抱負を語る。

京都精華大学

さわだ まさと
澤田 昌人

京都精華大学 学長



ウスビ・サコ学長の任期満了に伴い、2022年4月1日付で澤田昌人氏が学長に就任した。澤田新学長は1958年生まれ。1982年京都大学理学部卒業。同大学院理学研究科博士後期課程修了(理学博士)。専門は人類進化論・人類学・アフリカ地域研究。主な論文に「世界観の植民地化と人類学―コンゴ民主共和国、ムブティ・ピグミーにおける創造神と死者」、 「コンゴ戦争の和平交渉における停滞と他国からの政治的影響―『国民間対話』におけるサン・シテイ合意の成立と崩壊」等がある。

いく度か訪れた調査地であるコンゴ民主共和国では「森の民・ピグミー」とともに暮らした経験を持つが、1998年の内戦勃発時に脱出して以降、再訪する機会がないことを嘆いている。10数年前にも5年余学長補佐および副学長を務め、特に交換留学先の開拓を進め、学生の国際交流に深い関心を寄せてきた。 本学は人文系と芸術系が併存するという独特の性格を持つている。その特質を生かして真の意味でのリベラルアーツ大学として成長することができるよう尽力している。

東京国際大学

あさの よしはる
浅野 善治

東京国際大学 学長



塩澤修平前学長の任期満了に伴い、浅野善治経済学部教授が4月1日付で学長に就任、任期は3年。

1954年東京都生まれ。1976年慶應義塾大学法学部を卒業し、衆議院法制局に入局。副部長、法制主幹、衆議院調査局首席調査員を歴任、100本を超える議員立法の立案に携わった。2004年大東文化大学大学院法務研究科教授に就任し、法務研究科長、副学長を歴任した。専門は憲法学、立法学。主な論文は「憲法改正を発議する国会の性格」、「租税立法と法理論」、「政

府の政策決定と世論の乖離」など。 日本地方政治学会・日本地域政治学会理事長を歴任し、全国都道府県議会議長会法制執務アドバイザー、杉並区行政不服審査会会長なども務める。 本学の理念である「公德心を体した真の国際人の養成」を体現する、高い専門性に加え、相手を労わり気遣う日本の心を基礎とする、民族や文化、宗教を越えるコミュニケーション力と豊かな人間性、社会性を備えた、真に社会に求められる人材の養成を目指す。

高橋 德行(たかはし のりゆき)

根津育英会武蔵学園武蔵大学学長。慶應義塾大学経済学部卒業、バブソン大学修士課程修了(MBA)。専門はアントレプレナーシップ。'03に武蔵大学に着任。'22より現職。

森本 あんり(もりもと あんり)

東京女子大学学長。プリンスストン神学校修了(PFUC)。国際基督教大学教授・学務副学長を経て'22より現職。近著に『反知性主義』『異端の時代』『不寛容論』など。

増谷 文生(ますたに ふみお)

朝日新聞社論説委員兼編集委員。'94大阪市立大学法学部卒業。朝日新聞入社後、東京、仙台、名古屋、京都等で勤務し、'20より現職。取材の中心は高等教育。

富田 宏治(とみだ こうじ)

関西学院大学副学長・法学部教授。'88名古屋大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学。名古屋大学助手などを経て、'99より現職。主著『丸山眞男―「古層論」の射程』。

前澤 暁(まえざわ さとる)

桃山学院大学大学統括部学生支援課課長。桃山学院大学経済学部卒業後、一般企業を経て、'12より現職。

矢古宇 克昌(やこう かつまさ)

早稲田大学学生部事務副部長兼奨学課長。'21より現職。私大連「奨学金等分科会」委員、文科省「大学等修学支援施策推進事業に関する事業選定委員会」委員などを務める。

大谷 奈緒子(おたになおこ)

東洋大学社会学部教授。'97東洋大学大学院社会学研究科博士後期課程単位取得退学。修士(社会学)。'16より現職。共著『新放送論』など。

斎藤 裕紀恵(さいとう ゆきえ)

中央大学国際情報学部准教授。'08コンビア大学ティーチャーズカレッジ修了(文学修士)。'21テンプル大学大学院教育学研究科応用言語学博士課程修了。

高橋 雄一(たかはし ゆういち)

順天堂大学医学部総合診療科学講座助教。順天堂大学大学院医学研究科博士課程修了。

岡田 義広(おかだ よしひろ)

九州大学附属図書館付設教材開発センター教授・同センター長。'933月北海道大学大学院工学研究科博士後期課程修了。博士(工学)。'131月より現職。

岩城 健児(いわき けんじ)

創価大学企画部企画広報課課長。'05創価大学文学部社会学科卒業。'14多摩大学大学院経営情報学研究科修士課程修了。修士(経営情報学)。学生課を経て、'15から現職。

雨宮 智浩(あめみや ともひろ)

東京大学大学院情報理工学系研究科・VR教育研究センター准教授。'04東京大学大学院情報理工学系研究科修士課程修了。博士(情報科学)。NTTを経て、'19より現職。

相澤 清晴(あいざわ きよはる)

東京大学大学院情報理工学系研究科教授。'88東京大学大学院博士課程修了。工学博士。'01新領域創成科学研究科教授、'06より現職。'20より同大VR教育研究センター長。

野原 博人(のらひろひと)

立命館大学産業社会学部子ども社会専攻教授。'18東京学芸大学連合学校教育学研究科博士課程学位取得。博士(教育学)。主著『理科教育の新しいパラダイム』など。

佐々木 新一(ささき しんいち)

学校法人聖路加国際大学理事長。'74立教大学法学部卒業。'13住友商事株式会社代表取締役副社長。'14学校法人立教学院理

事。'21 4月より現職。

高松 理沙(たかまつりさ)

学校法人上智学院総務局経営企画グループ
プασテナビリティ推進担当。

朴 ジョンヨン(ぱくじよんよん)

神田外語大学体育・スポーツセンター准教授
および同大学ボランテイアセンター副センター
長兼任。'21 7月より一般社団法人リベラル
アーツ学院代表理事・学院院長を兼務。

鈴木 貴久(すずきたかひさ)

津田塾大学総合政策学部准教授。博士
(学術)。

江川 武彦(えがわたけひこ)

早稲田大学競技スポーツセンター職員。

氷見谷 直紀(ひみやなおき)

(独)日本芸術文化振興会理事長代理・理事。上智
大学法学部国際関係法学科卒。旧文部省入省
後在ドイツ日本国大使館勤務、文部科学省科学
技術・学術総括官等を経て'22 1月より現職。

川口 智恵(かわぐちちぐみ)

東洋学園大学グローバルコミュニケーション学
部専任講師、博士(国際公共政策)。'20より現

職。共編著『Crisis Management Beyond
the Humanitarian - Development Nexus』。

西尾 宣明(にしおのぶあき)

追手門学院大学文学部部長・教授。'85関西学
院大学大学院文学研究科博士後期課程単
位取得満期退学。博士(文学)。'22より現職。
編著『南島へ南島から―島尾敏雄研究―』等。

真銅 正宏(しんどうまさひろ)

追手門学院大学学長。'92神戸大学大学院
文化科学研究科文化構造専攻博士課程単
位取得後退学。博士(文学)。'20より現職。
主著『匂いと香りの文学誌』など。

金子 明雄(かねあきお)

立教大学江戸川乱歩記念大衆文化研究セン
ター長・文学部教授。'91同大学院文学研究科博
士後期課程(日本文学専攻)退学。社会学修士。
流通経済大学、日本大学を経て'15より現職。

西尾 昌樹(にしおまさき)

早稲田大学国際文学館事務長。'86早稲田
大学第一文学部西洋史学専修卒業。同年よ
り早稲田大学専任職員。'21 11月より現職。

大畑 大介(おほただいすけ)

元ラグビー日本代表、コベルコ神戸ス

ティーラースアンバサダー。京都産業大学
卒業後、同チームに所属。現在は、メディア
や講演を通してラグビーの普及に努める。

脇浜 紀子(わきはまのりこ)

京都産業大学現代社会学部教授。神戸大
学法学部卒業。'90読売テレビ入社。'10大阪
大学大学院国際公共政策博士取得。研究
分野は地域メディアと地域情報。

〈お断り〉本稿は、お書きいただいた資料から、
できる限り統一して掲載いたしました。

会長の動き

- 7月1日(金) 経団連 産学協議会幹事会に出席
- 7月6日(水) 日本私立大学団体連合会 役員会、総会に出席
- 7月19日(火) 第5回理事会、第4回常務理事会に出席
- 7月20日(水) 全私学連合 代表者会議に出席
- 8月3日(水) 文部科学省に令和5年度私学関係政府予算及び税制改正要望書を手交



開催報告

- 8月23日(火) 全私学連合 私学振興協議会を主催・出席
- 8月24日(水) 令和4年度第1回学長会議に講演者として出席
- 6月23日(木) 私大連「私立大学ガバナンス・コード」担当者座談会(オンライン開催)

- 7月26日(火) 令和4年度第1回財務・人事担当理事者会議(オンライン開催)
- 7月27日(水) 大学設置基準の一部改正に関する説明会(改正のポイントと大学への影響について)(オンライン開催)
- 8月5日(金)、9日(火)、10日(水) 令和4年度FD推進ワークショップ(オンライン開催)
- 8月24日(水) 令和4年度第1回学長会議(オンライン開催)
- 8月30日(火) 令和4年度教学担当理事者会議第1回(全体会議)(ハイブリット開催)

▼各資料は、左記の私大連Webサイトをご覧ください。



私大連Webサイトにて
各種活動に関する情報を公開
<https://www.shidairen.or.jp/>



私大連 TOPICS

大学時報Webサイトにて
「PICK UP! 大学時報」
更新中

「PICK UP! 大学時報」では、毎号1コーナをピックアップしてWeb公開しています。スマートフォンやタブレット端末で、記事をダウンロードすることなく、手軽に『大学時報』をご覧いただけます。

Webサイトの更新は、『大学時報』発行月の月末を予定していますので、ぜひご活用ください。



「PICK UP! 大学時報」
<https://daigakujihou.shidairen.or.jp/pickup/>



座談会 「“普段通り”をどう実行するか」

特集 「キャンパス移転で目指す新たな大学教育」

小特集 「いま、平和を考える」

だいがくのたから 大東文化大学

大学点描 城西国際大学

クローズアップ・インタビュー

青柳美扇さん(書道家、アーティスト、書道パフォーマンス甲子園アンバサダー)

編集後記

◆産業界のみならず教育業界においてもVRが注目され、各大学での利用が一気に進んでいる。VRの基盤研究や社会実装はコロナ禍以前より行われてきたが、本特集では、それが大学での学びを代替する一つの手段として、通常では考えられないスピードで広がってきた過程を、各校の事例から学ぶことができる。

無論VRは万能ではない。各大学の試みの中では、VRが持つ可能性とともに現時点における限界点にも触れられている。それらを踏まえつつ、リアルな代替ではない、VRでしか成し得ない学びのあり方を模索する手掛かりになれば幸いである。へ広報・情報委員会大学時報分科会委員・立命館大学総合企画部広報課長立岩健一

◆「五輪」とは何なのか。「東京2020オリンピック・パラリンピック」は、開催決定時から賛否両論を巻き起こし、大会の意義が何度も問われ、強い逆風の中で実施された。その混乱のなかで、大学は協力を求められ、翻弄されたと言っても過言ではないだろう。

東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会と連携協定を締結した大学・短期大学は810校にのぼったが、果たして成果を得られた大学があったのか疑問に思い調べたところ、いくつかの大学が、充実した報告書を公表していることがわかった。限定的かもしれないが、このような状況下にもかかわらず、成果に結びつけた大学があることに正直驚いた。

今回寄稿頂いた4大学の原稿を読み、当時の状況がリアルに伝わってくるのと同時に、現場の熱意と知恵、そして参加学生の柔軟さに感銘を受けた。想定外の状況下でも創意工夫で乗り越えた経験こそ、混乱が続く世界情勢の中で大学として何をすべきか、一つのヒントになるのではないだろうか。へ広報・情報委員会大学時報分科会委員・立命館大学広報室長長野香

◆「学生の経済支援 必要な人に届く制度に」(2022年5月25日朝日新聞社説)。本号座談会企画時に目にした新聞記事は、奇しくも出席者の増谷文生さんの筆によるもので

あった。改めて読み直して感じたことは、届けるという視点の重要性である。気候変動の影響か、大雨による大規模災害が毎年のように発生する中、防災気象情報における警戒レベルが見直されたのは2021年5月——いかにして情報を伝え、届けるか、その難しさをこの季節は特に感じる。

座談会では、修学支援新制度や各大学が用意している制度をいかに正しく伝え、理解してもらうかがカギとなることが共有された。しかし、必要な人に情報を届けるためには、大学のみの力では限界があることも感じられる。

インタビューゲストには、元ラグビー日本代表の大畑大介さんをお迎えした。幼い頃から目標達成に向けて必要なことを冷静に分析し行動してこられたお話は、現在、ご自身をメディアととらえ、意識的に情報発信を続けていく姿につながっている。

「伝える」と「届ける」の違いはよく言われることだが、届けるというキーワードから、今後の情報発信を考えるきっかけとしてみたい。へ日本私立大学連盟事務局 加賀崎奈美

一般社団法人 日本私立大学連盟 加盟大学一覧

※ 大学名ABC順 / ※ } は同一学校法人 (123大学 令和4年9月20日現在)

愛知大学	関西大学	南山大学	園田学園女子大学
亜細亜大学	関西学院大学	日本大学	大正大学
青山学院大学	関東学園大学	日本女子大学	拓殖大学
跡見学園女子大学	関東学院大学	ノートルダム清心女子大学	天理大学
梅花女子大学	慶應義塾大学	大阪学院大学	東邦大学
文教大学	恵泉女学園大学	大阪医科薬科大学	東北学院大学
筑紫女学園大学	敬和学園大学	大阪女学院大学	東北公益文科大学
中央大学	神戸女学院大学	大谷大学	東海大学
中央大学	神戸海星女子学院大学	追手門学院大学	常磐大学
大東文化大学	皇學館大学	立教大学	東京医療保健大学
獨協大学	國學院大学	立正大学	東京女子大学
獨協医科大学	国際武道大学	立命館大学	東京女子医科大学
姫路獨協大学	国際基督教大学	立命館アジア太平洋大学	東京経済大学
同志社大学	駒澤大学	龍谷大学	東京国際大学
同志社女子大学	甲南大学	流通科学大学	東京農業大学
フェリス女学院大学	久留米大学	流通経済大学	東京情報大学
福岡大学	共立女子大学	西武文理大学	東京歯科大学
福岡女学院大学	京都産業大学	聖学院大学	東洋大学
福岡女学院看護大学	京都精華大学	成城大学	東洋英和女学院大学
学習院大学	京都橘大学	聖カタリナ大学	東洋学園大学
学習院女子大学	九州産業大学	成蹊大学	豊田工業大学
白鷗大学	松山大学	西南学院大学	津田塾大学
阪南大学	松山東雲女子大学	聖路加国際大学	和光大学
広島女学院大学	明治大学	清泉女子大学	早稲田大学
広島修道大学	明治学院大学	聖心女子大学	山梨英和大学
法政大学	宮城学院女子大学	専修大学	四日市大学
実践女子大学	桃山学院大学	石巻専修大学	四日市看護医療大学
上智大学	桃山学院教育大学	芝浦工業大学	
城西大学	武蔵大学	白百合女子大学	
城西国際大学	武蔵野大学	仙台白百合女子大学	
順天堂大学	武蔵野美術大学	昭和女子大学	
金沢星稜大学	名古屋学院大学	創価大学	

大学時報

University Current Review

2022/9月号

第71巻406号(通巻419号)

令和4年9月20日発行

編集人 音好宏(上智大学文学部教授)

発行人 植木朝子(同志社大学学長)

発行所 一般社団法人 日本私立大学連盟

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25
私学会館別館

電話 03-3262-8672 FAX 03-3262-4363

<https://www.shidaiaren.or.jp>

編集 株式会社 WAVE

〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田3-3-20
明治安田生命大阪梅田ビル3階

〒104-0061 東京都中央区銀座3-10-9

KEC銀座ビル9階

松田美佐(中央大学文学部教授)

須藤智徳(法政大学多摩事務課課長)

中山映(上智大学学事局学事センター事務長)

依藤康正(関西大学総合企画室広報課長)

楊心来(関西学院広報室広報室長)

塩原良和(慶應義塾大学法学部教授)

江津英昭(明治大学経営企画部広報課長)

長野香(立教学院広報室長)

立岩健一(立命館大学総合企画部広報課長)

山田健太(専修大学文学部教授)

高橋慈海(大正大学魅力化推進部長)

大谷奈緒子(東洋大学社会学部教授)

五十嵐俊也(津田塾大学経営企画課課長)

鈴木宏隆(早稲田大学広報室長)

齋藤淳(日本私立大学連盟事務局)

加賀崎奈美(日本私立大学連盟事務局)

森下真帆(日本私立大学連盟事務局)

